

# 上越市の防災拠点施設耐震化率は県内2位

## 自主防災組織の組織率は県内7位

消防庁が実施している、防災拠点となる公共施設等の耐震化推進状況調査の結果をこのほど入手しました。

それによると、平成21年度末時点で地方公共団体が所有又は管理する防災拠点となる公共施設等は19万1074棟で、このうち13万5420棟の耐震性が確保されており、耐震率は70.9%となります。前回調査（平成20年度末）の数値は65.8%でしたので、5.1ポイント上昇しました。

この調査で県内20市はどうなっているかというと、防災拠点等耐震化率のトップは五泉市で81.4%、次いで上越市が75.1%となっていました。前回調査との比較はデータを手に入れないため、現在わかりません。

自主防災組織（主に町内会・自治会が母体となつて地域住民が自主的に連携して防災活動を行う任意団体）の組織率についても明らかになりました。こちらのデータは新潟県防災局調査結果です。

こちらのトップは小千谷市の99.9%、次いで南魚沼市の98.1%、十日町市97.8%と続きます。上越市は95.1%で県内20市の

なかで7位となっています。

自主防災組織については組織があっても機能するかどうかが問題です。16日の市議会一般質問では、防災組織のうち防災訓練をしている組織が68%にとどまっていることが明らかにされました。

### 指定管理者に初の減収等補填金

長野県北部地震は様々な分野に影響を与えています。市の所有施設を管理している指定管理者に減収等補填金を出すという予算が今年度の



一般会計補正予算で計上されています。これは市と指定管理者の協定書で「不可抗力により発生した費用等の負担」についてどうするかという条項に基づいて支出されるものです。雪だるま高原施設

でこの条項が適用される見通しです。予算では、キューピットバレイスキー場、センターハウス、雪だるま温泉など5施設に対して1834万円を補填する内容となっています。

「不可抗力により発生した費用等の負担」についての条項が適用されるのは、上越市では今回が初めて。私は14日の市議会総務常任委員会でも、どういった手順に基づいてすすめられるのか質問しました。また、今回の地震では、大島区の菖蒲高原の施設も被害を被り、今年度の営業を断念せざるを得ない状況に追い込まれています。ここにもこの条項が適用されるかどうかについても質問しました。菖蒲高原の施設については、市が指定管理者に支払う委託料との絡みもあって、すぐには結論がでないようです。どういった形になるうとも、今回の地震に負けずがんばられるよう温かい支援をしていく必要があります。

### シリーズ 上越市内の橋

#### 第69回 桜川橋



「桜川橋」と書いて「さくらがわばし」と読みます。飯から正善寺ダムへ行く途中、県道上正善寺高田線ににあります。「桜川」という名前がよいなと思っていたら、

近くには、「愛の風公園」「ほたる保育園」という素敵な名前前の施設がありました。橋の近くでは三人の子供たちが遊んでいました。

橋の長さは約20メートル。竣工は1986年（昭和61年）3月です。

### 県内20市における防災拠点整備率などの比較

	自主防災組織率（%）	防災拠点等耐震化率（%）	津波ハザードマップ
新潟市	68.8	70.8	○
長岡市	88.7	74.8	○
三条市	33.1	41.6	
柏崎市	97.1	81.2	
新発田市	50.1	65.5	○
小千谷市	99.9	50.9	
加茂市	0.0	61.3	
十日町市	97.8	48.5	
見附市	83.9	73.6	
村上市	68.2	55.9	
燕市	54.3	74.2	
糸魚川市	59.0	67.8	○
妙高市	95.8	55.6	
五泉市	10.1	81.4	
上越市	95.1	75.1	○
阿賀野市	50.2	69.0	
佐渡市	81.0	64.7	○
魚沼市	97.5	52.0	
南魚沼市	98.1	65.5	
胎内市	50.9	44.3	○

※自主防災組織率は平成22年4月1日現在の数値。防災拠点施設等耐震化率は平成22年3月末現在の数値。



新発見でした。妻の実家の居間で義母の写真を撮ったところ、逆光で本人は真つ黒。ところが、デジタルカメラの画像をのぞき込んでみると、目の形といい、肩の丸まっているところといい、義母の特徴が見事に出ていたのです。

一月に連れ合いを亡くしたばかりの義母。さぞかし淋しかろうと、妻と一緒に時々訪ねています。先だつての土曜日の夕方、柿崎区の黒岩から小村峠を越えるルートで妻の実家へ行ってきました。

この日は連絡なしで突然訪ねたこともあって、義母は大喜びでした。居間に入ると、義母は「ほんの今、洋子が帰ったばかりなんだよ」と言います。義姉も会社の帰りに義母のところ立ち寄りしていたのです。たぶん、私たちと同じことを考えていたのでしょう。

少しばかり話をしたあと、義母は居間の隅に椅子に座ってペダルこぎをはじめました。ペダルこぎの運動器具があることは前から気づいていましたが、これを使って義母が運動をしている姿を見るのは初めてでした。ちよつと上向きの格好で、足をくるくる回している姿はとても楽しそうです。これは、写真に撮っておかなくさやと、デジタルカメラを取り出して何枚かの写真を撮りました。

うれしそうな表情を撮り損ねてはいけなかつたと思つて、ちよつと慌てたんでしょね、義母のバックが明るく逆光になっていることを考えずにシャッターを押してしまいました。夕方とはいえ、まだ、外は明るい時間です。撮ったあと、デジタルカメラで再生してみると、外の景色はしっかりと写っているものの、義母の姿は真つ黒くなつていました。

でも、黒い画像を見た瞬間、思わず笑つてしまいました。真つ黒にしか写っていないのに、普通に撮れた写真以上に義母の特徴と雰囲気がよく出ていて、不思議なくらい迫真性があったからです。真つ黒写真でも、こんなにもリアルに、面白く撮れるのであれば、もつと撮つてみたい。うれしくなつて、私の心は弾みました。

それで、今度は義母の代わりに私が座り、ペダルこぎをしてるところを妻から撮ってもらいました。ペダルを軽やかに踏んで、腕も振つて、ポーズをとりました。すぐに画像を再生してみると、おデコから鼻にかけてのライン、顎（あご）の突き出たところなどは、間違いなく私であることがわかります。全体としても、嬉しくなつて調子づいている雰囲気がよく出ていました。

真つ黒写真を見てうれしくなるのは、私の場合、子どもの頃の体験がもとになっています。小学校の低学年だった頃のある日の夕方のこと、わが家の隣のカツノリさんが、裸電球の光を使って人の形などを障子戸に映し出して見せてくれました。極めて単純な絵ではあったのですが、初めて見る私には黒い絵がとても新鮮でした。そして、絵のなかには、ちよつとぴりエッチなものも含まれていたこともあって、忘れられない思い出となりました。

後方から光が当たって浮かび上がった風景や人物などの輪郭のことを横文字でシルエットといひます。夕陽を背にして写真を撮るときに、長くなった自分の影が入つてしまひ、困つたことがあります。でも、これからは、これらを逆手にとつて、いろんな形のシルエットを楽しんでみたいものです。また、新しい発見があるかも知れません。

## 第1浄水場の小水力発電所を視察

13日の夕方、上越地域水道用水供給企業団第1浄水場へ行ってきました。目的は同企業団の敷地内に設置してある小水力発電所の視察です。22



日の一般質問で自然エネルギーについて触れるので、ぜひ見ておきたかったのです。

同発電所は地域新エネルギー事業を活用して建設されました。同事業を活用したのものとしては新潟県内で初の小水力発電です。稼働は2009年（平成21年）3月、容量80kW、年間602,200kWhの電気を発電しています。一般家庭の消費電力で換算すると、約180世帯分に相当するというものでした。総事業費は9913万円。このうち半分は補助金です。

視察に行つて驚いたことがいくつもあります。ひとつは、小水力発電所という名前が付いているものの、発電機は予想したよりも大きかつたことです。長さは3mほどありました。正善寺ダムと第1浄水場の落差が45メートルも

あるというのもびっくりでした。発電所はこの落差を生かして発電していたのです。

上越市は農業用水でも小水力発電の可能性があるとされています。原発だのみから自然エネルギー優先への政策転換を求めて力を合わせましょう。

## 吉川区の大賀線、大島区の棚岡東線などの災害復旧工事は稲刈り前に完了へ

市議会建設企業常任委員会で大島区の市道、棚岡東線、菖蒲南線、熊田峠線、熊田西沢線、吉川区の大賀線の災害復旧工事は稲刈り前に完了させることが約束されました。

同委員会で奥田道路課長は岩野議員（大島区選出）の「秋の作業が始まるまでに完了させてもらいたい」との訴えに、「とり入れ前に終わらせていきたい」と答弁したのです。安塚区の細野上達線、須川中船線、清里区の赤池上牧線は11月末までかかる見通しです。

## 私の一般質問は22日の午後の予定

6月議会の一般質問に31人が登壇します。私は30番目。

長野県北部地震、原発問題、地域事業費制度の見直しについてとりあげます。予定では22日（水）の午後の登壇となります。JCVで実況中継されます。インターネットでも見られます。



一口メロンの花が咲きました